

あおぞら

発行：愛知県被災者支援センター
住所：名古屋市中区三の丸 3-2-1
愛知県東大手庁舎 1階
TEL：052-954-6722
FAX：052-954-6993
開館：月～金 10～17時



タイトル「わたし」



※交流会ノートから抜粋した絵を使用しています。

甘きねかなえ
関根叶笑さん 6歳 (小学1年生)

<表紙に掲載する子どもの描いた絵を募集しています>

あおぞらの表紙の絵を描いてみませんか？興味があればご連絡ください。

①絵のタイトル ②絵の説明 (30字程度) ③掲載するお名前 ④学年 (年齢) ⑤保護者の方の連絡先 (氏名・メールアドレスまたは電話番号) を明記のうえ、メールまたはFAXにてお送りください。

<編集委員募集のお知らせ>

月に一度発行している「あおぞら」は、愛知県被災者支援センターのスタッフとボランティアの方がたで協力をして発行しています。あなたも編集委員になってみませんか？

<発送作業のボランティア募集>

定期便発送作業のボランティアに参加してみませんか？

9月10日号の予定			9月25日号の予定			お問合せ・お申込み
封入作業	9月8日(木)	午後	封入作業	9月23日(金)	午後	愛知県被災者支援センター TEL：052-954-6722 (渡邊)
発送作業	9月9日(金)	午前	発送作業	9月26日(月)	午前	

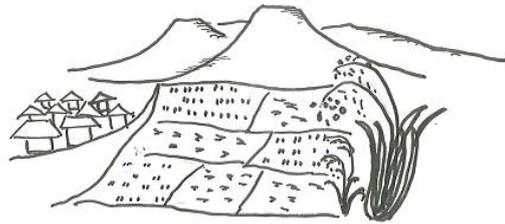
東日本大震災は、愛知県に住む私にとっても忘れることのできないことです。

あの日、震源地が東北であることを知ると、すぐ実家に電話をしました。揺れている最中にはありましたが母が電話に出て、「窓枠がひし形になっている。大変な地震だ」「すぐ外に出て!」と、緊張感のある会話をしました。その後地震だけではなく、原発事故が起こってしまったのです。

豊かな自然があり、見渡すかぎり山に囲まれている福島は、私の故郷です。福島で生活していたころは、地方の田舎町ではなく、都会で暮らしたいなどと常々考えていました。しかし、毎日の食卓にのっていた食材はとてもおいしく、満足していた気がします。春の山菜、夏野菜、キュウリに手作り味噌をつけたおやつ、秋、サトイモの煮っころがしは大好物です。冬、霜をかぶった野菜の味は、格別です。果物も当たり前のように食卓にありました。愛知県に来てからも、我が家の子どもたちは福島の野菜・果物を食べて育ちました。四季折々の充実した食卓だったことが、料理好きの私の原点かもしれません。

なぜ水素爆発などということが起きてしまったのだろう。時計を巻き戻すことができない原発事故という事実を、どのように受け止めればいいのか。答えのないことを考えていると、故郷とは自分にとってとても大切な場所であり、かけがえのないもの、そして、原点であったことに気づきました。

震災から5年が過ぎ、被災され故郷を離れ生活をされている方、また、地元で生活し日常を過ごされている方がおみえにな



ります。このような選択は自分たちが起こしたことではない原発事故が原因でのことです。この状況の中で判断し決定しなければならなかった、一人ひとりのことを想うと、今でもとても胸が痛みます。

また時間が経っても福島の抱える課題が、少なくなっていくわけでもないです。福島に住む方がいる、離れる方がいる、原発に反対する方ばかりでもない、農業・漁業についても、異なる考え、立場があることが、表面化してきているのではないのでしょうか。今後もっとそれぞれの生き方が多様化され、対応の一律化は難しくなっていくことと思います。

しかしどのような時でも、人生というものは自分で決めるものです。誰かが決定するものではないと思います。そしてその判断は、尊いものであり大切なことです。一人ひとりが自分の日常を大切に過ごすために環境を整えることは当然のことです。安心安全に生活していくことは、当たり前のことなのです。「もう大丈夫でしょう」と誰かが決定することでもないのです。自分のペースで、自分の生き方で大事な人生を進まれることと思います。

そして、今私のできることは、いつまでも東日本大震災を忘れることなく次世代に防災の必要性を伝え、被災されたすべての方々に心を寄せ生活していくことです。

(愛知県被災者支援センター ボランティア 松本久美子)

※挿し絵は松本さんの娘さんが描いてくれました。

名古屋市緑区にお住いの吉田さんご夫妻にお話を伺いました。

福島県いわき市からの避難

震災直後、福島第一原発事故が緊迫した状況だった2011年3月15日（火）に緊急避難を決意、翌日16日に、自宅のあった福島県いわき市から、親戚を頼って愛知県名古屋市へと自主避難しました。当時入手困難だった航空券の手配など、名古屋市緑区の親戚や周囲の人々の助けを得ながら、家族・親戚8人で避難しました。（そのうち吉田さんご夫妻と当時まだ保育園児だった娘さん、1歳過ぎだった息子さんの4人は、現在も名古屋にお住いです）

愛知県での新しい生活

吉田さんご夫妻は、避難後すぐ家族そろっての移住を考え、社会的な支援を求めて行動を開始しました。名古屋市緑区の南生協病院では、薬・おむつ等の物資の速やかな支援が始まりました。ご夫妻は、市役所・警察署など公的機関からの理解・支援を求めて赤ちゃんをおんぶしながら訪ね歩き、ハローワークにも足を運びました。まもなく被災者向け県営住宅の提供を受け、震災1ヵ月後には、いわき市の一軒家から引っ越し、2011年の夏までには、お二人それぞれが愛

知県内に仕事を持ち、助け合いながら新しい環境での生活に踏み出しました。現在、夫は介護福祉士として有料老人ホームの施設長、妻は管理栄養士として保育園の給食調理に携わり、社会の大切な役割を担いながらのご多忙な日々を過ごされています。

家族への思い

ご夫妻が避難・移住をすぐに決意した一番の理由は、子どもたちの健康への配慮でした。現在、姉が小学校5年生、弟が小学校1年生。名古屋育ちの姉弟は、地元の子どもたちとすっかり仲良しで元気に学童保育所にも通っています。父として夫として「仕事が忙しく家族と話す時間が十分とれない」と気づかう旦那さん、そして母として妻として家庭と仕事を両立し日頃から食材には気をつけている奥さま。ときに多忙さに疲れ、健康に不安を感じ、福島にいる高齢の親を思って心配になることも…そんなご夫妻を支えるのは、二人の子どもたちの明るい笑顔。「大人が思っているより、子どもたちはずっと強いかもしれない」と、旦那さん。「震災後、とても心配性になったけれど、子どもたちの笑顔に励まされます」と、奥さま。

被災者の立場から

「あの震災から5年経つが、精神的な助けが必要な被災者の方々もまだ多くいるのでは？また、自主避難者のための公的な住宅支援が打ち切られることへの不安もあります」

「愛知県で暮らすのか故郷に戻るのか、決断できない人も、たくさんいるのではないのでしょうか。愛知県被災者支援センターには、それぞれの覚悟の背中を押ししてもらいたいです」

そう語る吉田さんご夫妻にとって一番の願いは「大切な子どもたちが通う小学校のそばで今のまま暮らし続けること」なのだそうです。その願いが、どうかかかないますように…。

（あおぞら編集委員 中村友恵）

今回のイベントは「愛知のものづくりを知ろう！遊ぼう！体験しよう！」をテーマにトヨタ産業技術記念館に行き、参加者の方にさまざまな体験をしていただきました。

初めに施設見学を行いました。繊維機械と自動車に関連した遊具があるテクノランドで楽しく遊んだり、子どもたちがボタンを押して機械を動かし、キーホルダーを作ったりしました。

昼食の後は企画 Time です。株式会社デンソーのボランティアメンバーの方に来ていただき、世界に一つだけのオリジナルミニパフェ作りをしました。デンソーのボランティアスタッフの方が丁寧に楽しく教えてくださり、子どもたちも思い思いに満足するパフェができたようで、大変喜んでいました。



<新聞ゲームを楽しむ様子>



<参加者で記念撮影>

次の学生企画では「乗ってみたい未来の車を作ろう」と題し、車の型紙に色を塗り組み立てるペーパークラフトと、じゃんけんに負けたら乗っている新聞紙を1回畳み、どれだけ長く新聞紙の上に立ってられるかを競う新聞ゲームを行いました。

最後となる「なごやであそび隊」実行委員の4年生から1人ずつ挨拶をしました。卒業する先輩たちの想いをこれからもつなげ、来年度からもどんどん楽しいイベントを企画していきます。今回の工場見学では、施設の見学、企画ともに子どもたちの笑顔をたくさん見ることができました。動物園と並んで、工場見学も「なごやであそび隊」の恒例行事にしていきたいと思えます。ぜひ、次回は遊びに来てください！

(愛知淑徳大学3年 原田智美)

愛知淑徳大学

<長久手キャンパス>

所在地：〒480-1197 長久手市片平 2-9

電話：0561-62-4111

<星が丘キャンパス>

所在地：〒464-8671 名古屋市千種区桜が丘 23

電話：052-781-1151



支援団体紹介（名古屋 YWCA）

名古屋 YWCA の東日本大震災の支援活動は 2011 年 3 月 19 日（土）の緊急支援物資の送付から始まりました。「女性の視点」から、そして「長く続けていく」ためには何ができるか討議を重ね、4つの柱を立て、震災支援プロジェクトチームを立ち上げました。「3・11 つながるプロジェクト」と名前を変えたチームのもと、現在も活動を続けています。

その活動のうちの一つ、震災をきっかけに愛知県近隣に来られた女性たちの語り合いの場を開く活動は、「感じている今の思いをあるがまま安心して話せる場」「住み慣れた場所を離れ、今ここにいる人たちが集い支え合える場」を提供しようとの思いで 2011 年 7 月に始まりました。ほぼ毎月、その名も「あるがままチーム」のボラ



<おこしもの作りの様子>



<こいのぼりもち>

ンティアスタッフが企画・運営をし、愛知県被災者支援センターより広報等のご協力をいただき、現在に至っています。

5年前、赤ちゃんだったお子さんが今年4月、小学校に入学しました。名古屋 YWCA は今後も5年間、震災支援活動をしていきます。常に「このままの活動で良いのか、何かもっとできることはないのか」とボランティアスタッフは自問しながら毎回進めています。親子で参加でき、季節感のある楽しいプログラムを企画していますが、毎年好評なのは名古屋伝統の雛菓子「おこしもの」作りです。5月には紙でこいのぼりをたくさん作りました。

どうぞ、「今 あなたの感じているままの思いを語る場」にご参加ください。お待ちしております。

具体的な活動

- ・毎月1回 土曜日午後（13：30～15：00）
- ・実施内容 クラフト作り、おやつ作り、紙芝居等を通して交流を深め、お母さんたちが放射能や将来への不安、人間関係のこと等、同じ経験をした者同士でしか共有できない気持ちを語り合う。
- ・託児 安心して話し合いができるよう、保育士資格を持ったボランティアを中心に実施。

（名古屋 YWCA 会員 横井邦子）

あいちの **産直&体験施設**
 ~お買いものガイド~ **第15回**
 おすすめ果物を紹介
 季節の特産品 **ぶどう編**



今月号で紹介していない産地直売所・ふれあい体験施設については、県農林政策課が制作したインターネットサイト「あいちの農林水産産地直売所・ふれあい体験施設」でご覧になれます。



ぶどうは、枝が茶色く木質化したものが完熟しておいしいそうです。表面についている白い粉は、農薬ではなくブルームと言われ、新鮮な証でブルームの多いぶどうは味もよくオススメです。おいしいぶどうを自分で取ってみんなで楽しみながら、わいわいガヤガヤできるぶどう狩りに行ってみませんか。氷などで冷やして食べれば、よりおいしくいただくことができます。

PICK UP

岡崎駒立ぶどう狩り

場 所： 岡崎市駒立町
 連絡先： 0564-45-5151 (岡崎駒立ぶどう狩り組合)
 開園期間： 7月20日(水)～10月10日(月・祝)頃
 営業日時： 9:30～16:30 (最終受付 15:00)



7月20日(水)から4軒の農家でハウスデラウェアのぶどう狩りが、8月からは7軒すべての農家でぶどう狩りが始まり、10月10日(月・祝)までは、お休み無しで営業しております、ぶどうには限りがあり、無くなり次第終了とさせていただきます。10月以降はホームページやお電話でご確認ください。

<ぶどう狩り・産地直売所>

No	施設の名称	住所・場所	営業日時	連絡先
①	大島ぶどう園	名古屋市守山区上志段味東谷 2110-39	9:00～17:00 ごろ(8月25日～9月11日ごろ)	052-736-3385
②	大府長根山ぶどう狩り	大府市長根町 2-180	9:00～17:00 (8月5日～14日、8月23日～9月17日)	0562-46-4911 (期間中)
③	サグワットファーマーズ	大府市長根町 5-63	直売 8:30～18:00、巨峰狩り 9:00～16:00 (7月20日～9月中旬 期間中無休)	0562-46-3707
④	蒲郡オレンジパーク	蒲郡市清田町小栗見 1-93	9:00～17:00 (予約受付 9:00～18:00) ぶどう狩り 6月中旬～9月 年中無休)	0533-68-2321
⑤	大西ぶどう園	知多郡東浦町森岡字南陽一区 182-2	9:00～18:00 (7月下旬～9月中旬)	0562-83-0547 (期間中)

●施設の開園期間・営業時間は異なることがあります。定休日などをご確認のうえ、お出かけください。施設のホームページからも詳細を確認いただけます。





旬のお出かけ情報

～美術・芸術～



たまには家族で美術館にお出かけしてみるのもオススメです。さまざまな美術動向や作家を取り上げた企画展が随時開催されていますし、何より子どもの情操教育にもつながります。さまざまなプログラムがありますので、ホームページより確認して、この時期にしか見られない芸術にふれてみませんか。



PICK UP

名古屋ボストン美術館

場 所： 名古屋市中区金山町 1-1-1
アクセス： 「金山駅」南口出て右手の金山南ビル内（徒歩1分）
連絡先： 052-684-0101



1999年に開館して以来、米ボストン美術館の姉妹館として、展示資料はすべてボストン美術館から借り受けて展示をしています。2018年度末での閉鎖が正式決定し、20年間の幕を下ろすことになりました。2016年9月10日（土）～12月11日（日）は、展覧会「俺たちの国芳 わたしの国貞」を4階ボストンギャラリーと5階オープンギャラリーで行います。この機会に足を運んでみてはいかがでしょうか。



PICK UP

あいちトリエンナーレ 2016

会 場： 愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、
名古屋・豊橋・岡崎市内のまちなか
会 期： 8月11日（木・祝）～10月23日（日）
テ ー マ： 虹のキャラヴァンサライ 創造する人間の旅



旅する人間というテーマにちなみ、今回のトリエンナーレでは移動、横断、越境といったダイナミックな創造のあり方がクローズアップされています。アジア太平洋地域はもとより、中南米や中近東といった日本から遠い国々からも、数多くのアーティストが参加しています。3市の地区で作品を鑑賞できるので、お近くの会場まで足を運んでみませんか。

<県内の美術・芸術施設等の一覧>

No	名称	場所	アクセス	QRコード
①	高浜市やきものの里かわら美術館	高浜市青木町 9-6-18	名鉄「高浜港駅」徒歩 10分	
②	碧南市藤井達吉現代美術館	碧南市音羽町 1-1	名鉄「碧南駅」徒歩 6分	
③	豊田市美術館	豊田市小坂本町 8-5-1	名鉄「豊田市駅」または、愛知環状鉄道「新豊田駅」徒歩 15分	
④	おかざき世界子ども美術博物館	岡崎市岡町烏居戸 1-1 岡崎地域文化広場内	名鉄「藤川駅」徒歩 25分	

●詳しい情報は各施設のホームページ等をご確認ください。

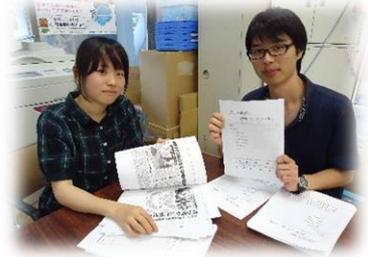


ボランティアスタッフ紹介 ～ 名古屋工業大学ボランティア部 ～

支援センターのボランティアスタッフになった経緯や今の思いを紹介していきます。

第6回は国立大学法人名古屋工業大学（名工大）ボランティア部の皆さんです。

名工大ボランティア部では、新聞スクラップのボランティアに参加しています。宮城で発行されている『河北新報』の中から、東日本大震災に関連した、復興状況や被災地の生活についての記事を切り抜き、愛知県に県外避難されている方々へ現地の情報を提供するお手伝いを行っています。



東日本大震災が起きてから5年以上が経ちましたが、今でも仮設住宅が残っていたり、復旧できていない施設があったりと、不便な生活を強いられている方が多くいます。そのような事実を知り、私にも何かできることはないだろうか考えるようになりました。少しでも、被災された方のお役に立てればと思います、今後も活動を続けていこうと思っています。

支援センターからのお知らせ

<編集後記>

- ★先日H農園で野菜の収穫に参加させていただきました。帰宅後、寸胴鍋で完熟トマトをベースに夏野菜を水なしで煮込みました。味付けは塩と酢、醤油少々。我が家の昔からの“夏野菜なんでも煮込み鍋”おいしかったです。(A.I)
- ★福祉住環境コーディネーター3級を受けました。年を取ってからは住宅環境によって、自立した生活が続けられるかどうか左右されることが分かりました。(J.I)
- ★夏休みに入ってから子どもがなかなか外に出て行かないので、週末にモリコロパークへ連れ出しました。自然の中に行くとは癒されるし、とても涼しい。木々の偉大さを感じました。(Y.Y)
- ★アスファルトの道が続く街角で、響きわたる蝉時雨・街路樹の影に癒されています。(T.N)
- ★いわき市に帰還した友人と夕食を共にしました。自分決めた道を突き進むと決心したそうです。皆迷いはあります。想いを共有しませんか？(E.K)
- ★今年地元婦人会から盆踊りに参加します。古典的な「炭坑節」から新作「365日の紙飛行機」まで6曲を練習しています。参加者は小学生からシニアの男性、100才のご婦人まで。初めは腰が重かったけれど、やっているとは結構楽しいものです。(K.T)
- ★福島県南相馬市の「野馬追」に行きました。テレビで見るより遥かに素晴らしかった。伝統・文化の継承の大切さに圧倒されました。(H.T)

- 9月のイベントの詳細は定期便に同封のチラシをご覧ください。皆様のご参加をお待ちしております。

あおぞらに関する
ご意見ご感想はこちら

〒460-0001

名古屋市中区三の丸3-2-1

愛知県東大手庁舎1階

愛知県被災者支援センター

TEL : 052-954-6722

FAX : 052-954-6993

Mail : aozora@aichi-shien.net

